

3-2-4 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

(1) 動物

1) 哺乳類

周辺地域では、低地から丘陵地に普通に生息する哺乳類が分布している。

平成8年度大河津分水路環境影響調査業務委託報告書(信濃川工事事務所、平成9年3月)によると、大河津分水路周辺^{注)}ではキツネ、タヌキをはじめとする中型哺乳類、ネズミ類など17種の哺乳類の生息が報告されている。

また、平成8年度河川水辺の国勢調査(小動物)業務委託報告書(信濃川工事事務所、平成9年3月)及び平成13年度河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務委託報告書(信濃川工事事務所、平成14年3月)によると、河口部から与板橋までの堤外地においては、11種の哺乳類の生息が報告されている。

なお、重要種に該当する種はない。

2) 両生・爬虫類

周辺地域では、低地から丘陵地に普通に生息する両生類、爬虫類が分布している。

平成8年度大河津分水路環境影響調査業務委託報告書(信濃川工事事務所、平成9年3月)によると、大河津分水路周辺^{注)}では、両生類ではニホンアカガエル、アマガエルなど13種の生息と、重要種4種(タゴガエル、モリアオガエル、クロサンショウウオ、ハコネサンショウウオ)が、爬虫類ではシマヘビ、アオダイショウなど7種の生息(重要種は該当なし)が報告されている。

また、平成3・4年度信濃川工事事務所水系(信濃川)両生類・爬虫類・哺乳類調査(信濃川工事事務所、平成5年3月)、平成8年度河川水辺の国勢調査(小動物)(信濃川工事事務所、平成9年3月)及び平成13年度河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務委託報告書(信濃川工事事務所、平成14年3月)によると、河口部から与板橋までの堤外地においては、両生類では7種の生息と重要種1種(モリアオガエル)が、爬虫類では6種(重要種は該当なし)の生息が報告されている。

両生類の重要種の一覧を表3-12に示す。

表 3-12 両生類の重要種一覧

番号	目名	科名	種名	現 地				現地確認地点、もしくは範囲	備 考
				A	B	C	D		
1	サンショウウオ	サンショウウオ	ハコネサンショウウオ					範囲外(国上山北西側の溪流)	県RDB-NT
2	サンショウウオ	サンショウウオ	クロサンショウウオ					大河津分水路(渡部橋上・下流)	県RDB-NT
3	カエル	アカガエル	タゴガエル					範囲外(国上山山中の谷筋)	県RDB-NT
4	カエル	アオガエル	モリアオガエル					大河津分水路(渡部橋上・下流)	県RDB-NT

A: 「平成3・4年度信濃川水系(信濃川)両生類・爬虫類・哺乳類調査」(平成3年・4年度調査)

B: 「河川水辺の国勢調査(小動物)」(平成8年度調査)

C: 「平成8年度大河津分水路環境影響調査」(平成4年・5年・8年度調査)

D: 「河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類)」(平成13年度調査)

県RDB: 「新潟県レッドデータブック」(新潟県、平成13年)における選定種 NT: 準絶滅危惧

3) 鳥 類

周辺地域では、多くの水鳥やミサゴなどの猛禽類をはじめとする低地(河川の河口域を含む)から丘陵地に生息する鳥類が分布している。冬季は、平成14年から銃猟禁止区域となっている可動堰周辺にカモ類を中心とした多くの冬鳥が集まり、集団越冬地となっている。

平成8年度大河津分水路環境影響調査業務委託報告書(信濃川工事事務所、平成9年3月)によると、大河津分水路周辺^{注)}では117種の生息と、重要種7種(チュウサギ、ミサゴ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、ハヤブサ、コアジサシ)が報告されている。

また、信濃川水系鳥類調査(信濃川工事事務所、平成6年3月)及び平成10年度河

注) 大河津分水路周辺: 平成8年度大河津分水路環境影響調査業務委託報告書の現地調査範囲内を指す。

具体的には、縦断方向が河口部から与板橋の堤内地を含む範囲で、横断方向が片側約2kmの範囲である。

川水辺の国勢調査（鳥類）業務委託報告書（信濃川工事事務所、平成 11 年 3 月）によると、河口部から与板橋までの堤外地においては、143 種の生息と重要種 6 種（マガン、ミサゴ、オオタカ、チュウヒ、ハヤブサ、コアジサシ）が報告されている。
鳥類の重要種の一覧を表 3-13 に示す。

表 3-13 鳥類の重要種一覧

番号	目名	科名	種名	現 地			現地確認地点、もしくは範囲	備 考
				A	B	C		
1	コウノトリ	サギ	チュウサギ				大河津可動堰～馬越島	RDB-NT、県RDB-NT
2	カモ	カモ	マガン				大河津可動堰～馬越島	国天、RDB-NT、県RDB-NT
3	タカ	タカ	ミサゴ				大河津分水路河口～大河津可動堰、範囲外（大河津分水路河口周辺）	RDB-NT、県RDB-N
4	タカ	タカ	ハチクマ				範囲外（大河津分水路下流周辺右岸）	RDB-NT、県RDB-NT
5	タカ	タカ	オオタカ				大河津可動堰上流、範囲外（大河津分水路河口周辺）	種保存、RDB-VU、県RDB-VU
6	タカ	タカ	ハイタカ				範囲外（大河津分水路下流周辺右岸）	RDB-NT、県RDB-NT
7	タカ	タカ	チュウヒ				大河津可動堰上流	RDB-VU、県RDB-NT
8	タカ	ハヤブサ	ハヤブサ				大河津分水路（大河津可動堰下流）	RDB-VU、県RDB-NT
9	チドリ	カモメ	コアジサシ				大河津分水路河口～与板橋、範囲外（大河津分水路河口周辺の海岸）	RDB-VU、県RDB-NT

A：「信濃川水系鳥類調査」（平成 5 年度調査）

B：「平成 8 年度大河津分水路環境影響調査」（平成 4 年・5 年・8 年度調査）

C：「平成 10 年度 河川水辺の国勢調査（鳥類）」（平成 10 年度調査）

国天：文化財保護法の「天然記念物」

種保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の「国内希少野生動植物種」「国際希少野生動植物種」

RDB：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック -」（環境省、2002）における選定種 CR+EN：絶滅危惧 類、CR：絶滅危惧 A 類、EN：絶滅危惧 B 類、VU：絶滅危惧 類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

県RDB：「新潟県レッドデータブック」（新潟県、平成 13 年）における選定種 EN：絶滅危惧 類、VU：絶滅危惧 類、NT：準絶滅危惧

4) 陸上昆虫類

周辺地域では、主に低地の草地や湿地に生息する多くの昆虫類が分布している。

平成 7 年度信濃川水系全域（信濃川下流・信濃川・大河津分水路・魚野川・千曲川・犀川）昆虫調査報告書（信濃川工事事務所、平成 8 年 3 月）によると、大河津分水路周辺注）では 1291 種の生息が報告されている。

また、平成 7 年度信濃川水系（信濃川・大河津分水路・魚野川）報告書及び平成 12 年度河川水辺の国勢調査（陸上昆虫類等調査）業務（信濃川工事事務所、平成 13 年 3 月）によると、河口部から与板橋までの堤外地においては、435 種の生息と重要種 5 種（ハルゼミ、ハラビロハンミョウ、カワラハンミョウ、ギフチョウ、オオムラサキ）が報告されている。

陸上昆虫類の重要種の一覧を表 3-14 に示す。

表 3-14 陸上昆虫類の重要種一覧

番号	目名	科名	種名	現 地			現地確認地点、もしくは範囲	備 考
				A	B	C		
1	カメムシ（半翅目）	セミ	ハルゼミ				大河津分水路（河口、渡部橋付近）	県RDB-N
2	コウチュウ（鞘翅目）	ハンミョウ	ハラビロハンミョウ				大河津分水路河口、範囲外（大河津分水路河口右岸海岸）	RDB-VU、県RDB-NT
3	コウチュウ（鞘翅目）	ハンミョウ	カワラハンミョウ				大河津分水路河口	RDB-VU、県RDB-NT
4	チョウ（鱗翅目）	アゲハチョウ	ギフチョウ				大河津分水路下流両岸、範囲外（大河津可動堰～与板橋の左岸）	RDB-VU、県RDB-NT
5	チョウ（鱗翅目）	タテハチョウ	オオムラサキ				範囲外（大河津分水路下流右岸山中）	RDB-NT、県RDB-NT

A：「平成 7 年度信濃川水系全域（信濃川下流・信濃川・大河津分水路・魚野川・千曲川・犀川）昆虫調査」（平成 7 年度調査）

B：「平成 8 年度大河津分水路環境影響調査」（平成 4 年・5 年・8 年度調査）

C：「平成 12 年度 河川水辺の国勢調査（陸上昆虫類等調査）」（平成 12 年度調査）

RDB：「環境庁レッドリスト」（環境庁、平成 10 年）における選定種 CR+EN：絶滅危惧 類、CR：絶滅危惧 A 類、EN：絶滅危惧 B 類、VU：絶滅危惧 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

県RDB：「新潟県レッドデータブック」（新潟県、平成 13 年）における選定種 EN：絶滅危惧 類、VU：絶滅危惧 類、NT：準絶滅危惧

注）大河津分水路周辺：平成 8 年度大河津分水路環境影響調査業務委託報告書の現地調査範囲内を指す。

具体的には、縦断方向が河口部から与板橋の堤内地を含む範囲で、横断方向が片側約 2 km の範囲である。

(2) 水生生物

1) 魚類

周辺地域では、分水路が多くの工作物を含む人工水路にもかかわらず、サケなどの回遊魚のほか、多くのコイ科魚類が分布している。また、ウケクチウグイなどの分布が限られた重要種も分布している。

平成9年度大河津分水路環境影響調査業務委託報告書（信濃川工事事務所、平成10年3月）によると、大河津分水路周辺^{注）}では42種の生息が報告されている（重要種は該当なし）。

また、平成4年度信濃川水系魚介類調査（信濃川工事事務所、平成5年3月）、平成9年度河川水辺の国勢調査（魚介類・底生動物）業務委託報告書（信濃川工事事務所、平成10年3月）及び平成14年度河川水辺の国勢調査（魚介類・底生動物）業務委託報告書（信濃川工事事務所、平成15年3月）によると、河口部から与板橋までの堤外地においては、29種の生息と重要種4種（ウケクチウグイ、ウナギ、メダカ、チチブ）が報告されている。

魚類の重要種の一覧を表3-15に示す。

表 3-15 魚類の重要種一覧

番号	目名	科名	種名	現地				現地確認地点、もしくは範囲	備考
				A	B	C	D		
1	ウナギ	ウナギ	ウナギ					馬越島付近	県RDB-NT
2	コイ	コイ	ウケクチウグイ					馬越島付近	RDB-EN、県RDB-NT
3	ダツ	メダカ	メダカ					馬越島付近	RDB-VU、県RDB-NT
4	スズキ	ハゼ	チチブ					大河津分水路（渡部橋付近）	県RDB-LP

A：「平成4年度信濃川水系（信濃川・大河津分水・魚野川）魚介類調査」（平成4年度調査）
 B：「平成9年度大河津分水路環境影響調査」（平成9年度調査）
 C：「河川水辺の国勢調査（魚介類・底生動物）」（平成9年度調査）
 D：「河川水辺の国勢調査（魚介類・底生動物）」（平成14年度調査）
 RDB：「環境庁レッドリスト」（環境庁、平成10年）における選定種 CR+EN：絶滅危惧 類、CR：絶滅危惧 A類、EN：絶滅危惧 B類、VU：絶滅危惧 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足
 県RDB：「新潟県レッドデータブック」（新潟県、平成13年）における選定種 EN：絶滅危惧 類、VU：絶滅危惧 類、NT：準絶滅危惧、LP：地域個体群

2) 底生動物

周辺地域では、水深が深く河床材料がシルトや砂泥であるため、カゲロウ類、トビケラ類は少ないが、重要種を含め貝類、甲殻類、昆虫類などが分布している。

平成9年度大河津分水路環境影響調査報告書（信濃川工事事務所、平成10年3月）によると、大河津分水路周辺^{注）}では101種の生息が報告されている（重要種の該当なし）。

また、平成4年度信濃川水系底生動物調査（信濃川工事事務所、平成5年3月）、平成9年度河川水辺の国勢調査（魚介類・底生動物）業務委託報告書（信濃川工事事務所、平成10年3月）及び平成14年度河川水辺の国勢調査（魚介類・底生動物）業務委託報告書（信濃川工事事務所、平成15年3月）によると、河口部から与板橋までの堤外地においては、137種の生息と重要種8種（マルタニシ、モノアラガイ、カラスガイ、テナガエビ、オオモノサシトンボ、メガネサナエ、ナゴヤサナエ、タイコウチ）が報告されている。

底生動物の重要種の一覧を表3-16に示す。

表 3-16 底生動物の重要種一覧

番号	目名	科名	種名	現地				現地確認地点、もしくは範囲	備考
				A	B	C	D		
1	ニナ	タニシ	マルタニシ					大河津分水路（渡部橋付近）・（魚介類調査）	RDB-NT、県RDB-NT
2	モノアラガイ	モノアラガイ	モノアラガイ					馬越島付近	RDB-NT、県RDB-NT
3	イシガイ	イシガイ	カラスガイ					（魚介類調査）	RDB-NT、県RDB-NT
4	エビ	テナガエビ	テナガエビ					馬越島付近	県RDB-NT
5	トンボ	モノサシトンボ	オオモノサシトンボ					馬越島付近	RDB-CR+EN、県RDB-EN
6	トンボ	サナエトンボ	メガネサナエ					馬越島付近	県RDB-EN
7	トンボ	サナエトンボ	ナゴヤサナエ					大河津放水路（渡部橋付近）	県RDB-NT
8	カメムシ	タイコウチ	タイコウチ					馬越島付近	県RDB-EN

A：「平成4年度信濃川水系（信濃川・大河津分水・魚野川）底生動物調査」（平成4年度調査）
 B：「平成9年度大河津分水路環境影響調査」（平成9年度調査）
 C：「河川水辺の国勢調査（魚介類・底生動物）」（平成9年度調査）
 D：「河川水辺の国勢調査（魚介類・底生動物）」（平成14年度調査）
 RDB：「環境庁レッドリスト」（環境庁、平成10年）における選定種 CR+EN：絶滅危惧 類、CR：絶滅危惧 A類、EN：絶滅危惧 B類、VU：絶滅危惧 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足
 県RDB：「新潟県レッドデータブック」（新潟県、平成13年）における選定種 EN：絶滅危惧 類、VU：絶滅危惧 類、NT：準絶滅危惧

注）大河津分水路周辺：平成8年度大河津分水路環境影響調査業務委託報告書の現地調査範囲内を指す。
 具体的には、縦断方向が河口部から与板橋の堤内地を含む範囲で、横断方向が片側約2kmの範囲である。

(3) 植 物

1) 植物相

周辺地域では、河辺の草地に普通にみられる植物を中心に湿地性の重要種が分布する。平成 8 年度大河津分水路環境影響調査業務委託報告書（信濃川工事事務所、平成 9 年 3 月）によると、大河津分水路周辺^{注）}では 806 種の生育と、重要種 35 種（コシノカンアオイ、タコノアシ、エビネなど）が報告されている。

また、平成 6 年度信濃川水系植物調査（信濃川工事事務所、平成 7 年 3 月）及び平成 11 年度河川水辺の国勢調査（植物調査）業務委託報告書（信濃川工事事務所、平成 12 年 3 月）によると、河口部から与板橋までの堤外地においては、474 種の生育と重要種 8 種（トモエソウ、タコノアシ、カワヂシャ、オミナエシ、カンエンガヤツリ、エビネ、サイハイラン）が報告されている。

植物種の重要種の一覧を表 3-17 に示す。

2) 植物群落

平成 11 年度の植生図を図 3-23 に示す。

平成 11 年度河川水辺の国勢調査（植物調査）業務委託報告書（信濃川工事事務所、平成 12 年 3 月）によると、調査地域の自然植生としてはヨシ群落とオギ群落が広い面積を占めており、計画地周辺、特に可動堰上流左岸にもまとまった群落が存在する。このヨシ群落はチュウヒ等の高茎草地に依存する生物の生息場所となっている。

平成 6 年度及び平成 11 年度の各区間ごとの植生別面積を図 3-22 に示す。

平成 6 年から平成 11 年の変化をみると、大河津分水路区間では、湿性草地（ヨシ群落等）、湿性樹林（ヤナギ林）の割合が減少し、その他の草地（造成地雑草群落、カナムグラ - クズ群落、セイタカアワダチソウ群落等）が増加している。堰上流水域の区間では湿性草地は同様に減少しているが、全体の 20% は残存している。湿性樹林はほとんど変化はない。与板橋上流の区間は、湿性草地、湿性樹林の面積の占める割合は小さいが、堰上流水域の区間と同様の傾向を示している。

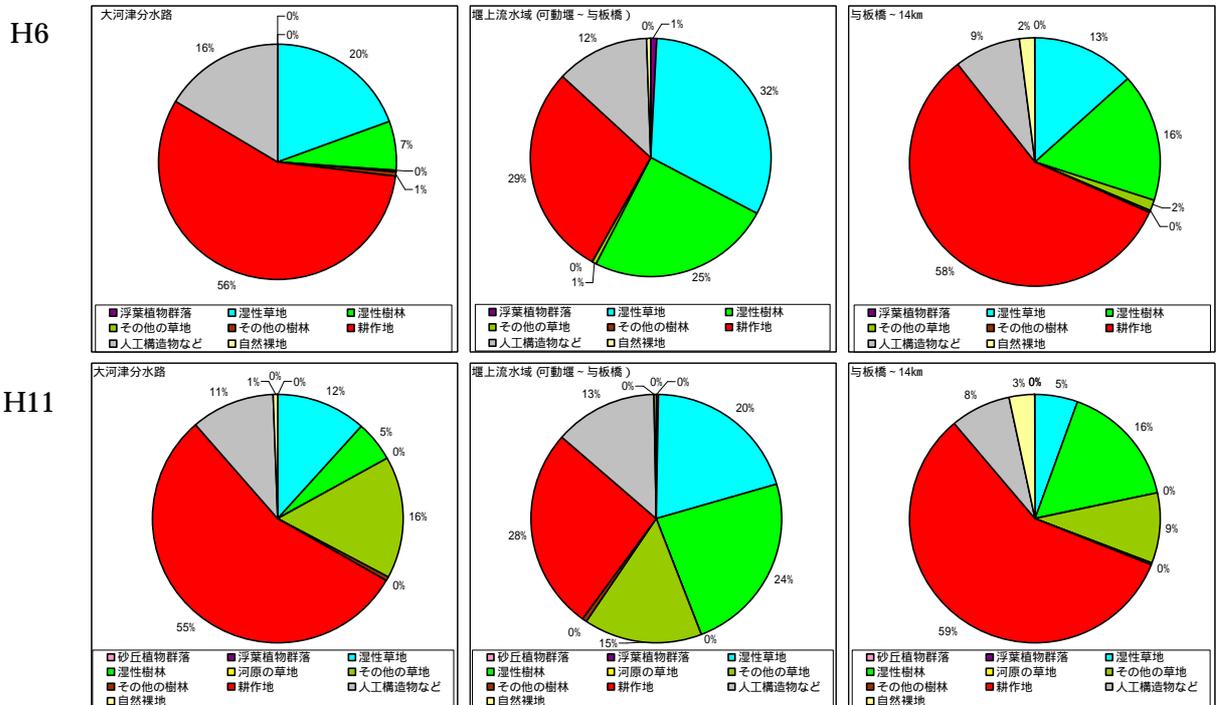


図 3-22 各区間ごとの植生別面積の変化（平成 6 年と平成 11 年）

注）大河津分水路周辺：平成 8 年度大河津分水路環境影響調査業務委託報告書の現地調査範囲内を指す。
具体的には、縦断方向が河口部から与板橋の堤内地を含む範囲で、横断方向が片側約 2 km の範囲である。

表 3-17 植物の重要種一覧

番号	門・綱名				科名	種名	現 地			現地確認地点、もしくは範囲	備 考
							A	B	C		
1	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	キンボウゲ	オクトリカブト				範囲外(大河津分水路左岸)	指定植物
2	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	キンボウゲ	スハマンソウ				範囲外(大河津分水路両岸)	指定植物
3	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	キンボウゲ	キクザキイチゲ				大河津分水路下流右岸	指定植物
4	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	キンボウゲ	アズマイチゲ				範囲外(大河津分水路左岸)	指定植物
5	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	キンボウゲ	トリガタハンショウズル				範囲外(大河津分水路右岸)	指定植物
6	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	オトギリソウ	トモエソウ				大河津可動堰～与板橋	県RDB-VU
7	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	ウマノスズクサ	ウスバサイシン				範囲外(大河津分水路右岸)	指定植物
8	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	ウマノスズクサ	コシノカンアオイ				大河津分水路下流両岸	RDB-NT、指定植物
9	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	モウセンゴケ	モウセンゴケ				範囲外(大河津可動堰～与板橋左岸)	指定植物
10	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	ケシ	ミチノクエンゴサク				範囲外(大河津分水路右岸)	指定植物
11	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	ユキノシタ	コシノチャルメルソウ				大河津分水路右岸	指定植物
12	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	ユキノシタ	タコノアシ				大河津分水路河口～与板橋	RDB-VU、県RDB-VU
13	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	バラ	ハマナス				大河津分水路河口	県RDB-VU、指定植物
14	種子植物	被子植物	双子葉植物	離弁花類	スミレ	テリハタチツボスミレ				範囲外(大河津分水路下流右岸)	指定植物
15	種子植物	被子植物	双子葉植物	合弁花類	イワウメ	オオイワウチワ				範囲外(大河津分水路下流右岸)	指定植物
16	種子植物	被子植物	双子葉植物	合弁花類	イチヤクソウ	ウメガサソウ				大河津分水路右岸	指定植物
17	種子植物	被子植物	双子葉植物	合弁花類	イチヤクソウ	ギンリョウソウ				範囲外(大河津分水路下流右岸)	指定植物
18	種子植物	被子植物	双子葉植物	合弁花類	ゴマノハグサ	カワデジャ				大河津分水路大河津大橋下流～大河津可動堰上流、与板橋下流	RDB-NT
19	種子植物	被子植物	双子葉植物	合弁花類	ツツジ	レンゲツツジ				大河津分水路下流右岸	指定植物
20	種子植物	被子植物	双子葉植物	合弁花類	タヌキモ	タヌキモ				不明	RDB-VU、県RDB-VU
21	種子植物	被子植物	双子葉植物	合弁花類	オミナエシ	オミナエシ				大河津分水路下流左岸	県RDB-EN
22	種子植物	被子植物	双子葉植物	合弁花類	キキョウ	ヤマホタルブクロ				範囲外(大河津分水路下流両岸)	指定植物
23	種子植物	被子植物	単子葉植物		ユリ	カタクリ				大河津分水路下流右岸、範囲外(大河津分水路下流両岸)	指定植物
24	種子植物	被子植物	単子葉植物		ユリ	ショウジョウバカマ				大河津分水路下流左岸、範囲外(大河津分水路下流両岸)	指定植物
25	種子植物	被子植物	単子葉植物		ユリ	クルマユリ				大河津分水路下流右岸、範囲外(大河津分水路下流両岸)	指定植物
26	種子植物	被子植物	単子葉植物		ユリ	エンレイソウ				大河津分水路下流右岸、範囲外(大河津分水路下流両岸)	指定植物
27	種子植物	被子植物	単子葉植物		ミクリ	ミクリ				大河津可動堰上流～馬越島下流	RDB-NT、県RDB-NT
28	種子植物	被子植物	単子葉植物		カヤツリグサ	カンエンガヤツリ				大河津可動堰上流～馬越島下流	RDB-VU
29	種子植物	被子植物	単子葉植物		サトイモ	ヒメザゼンソウ				馬越島下流右岸、範囲外(大河津分水路下流両岸)	指定植物
30	種子植物	被子植物	単子葉植物		ラン	エビネ				範囲外(大河津分水路下流左岸)	RDB-VU、県RDB-VU、指定植物
31	種子植物	被子植物	単子葉植物		ラン	ギンラン				大河津分水路下流右岸	指定植物
32	種子植物	被子植物	単子葉植物		ラン	キンラン				大河津分水路下流左岸	RDB-VU、県RDB-VU、指定植物
33	種子植物	被子植物	単子葉植物		ラン	ササバギンラン				範囲外(大河津分水路下流右岸、馬越島下流左岸)	指定植物
34	種子植物	被子植物	単子葉植物		ラン	サイハイラン				大河津分水路下流左岸、範囲外(大河津分水路下流右岸)	指定植物
35	種子植物	被子植物	単子葉植物		ラン	シュンラン				大河津分水路下流両岸、範囲外(大河津分水路下流左岸)	指定植物
36	種子植物	被子植物	単子葉植物		ラン	アケボノシュスラン				大河津分水路(渡部橋上流左岸)	指定植物
37	種子植物	被子植物	単子葉植物		ラン	ミヤマウスラ				大河津分水路下流両岸、馬越島下流左岸、範囲外(大河津分水路下流両岸)	指定植物
38	種子植物	被子植物	単子葉植物		ラン	クモキリソウ				大河津分水路下流右岸、馬越島下流左岸、範囲外(大河津分水路下流左岸)	指定植物
39	種子植物	被子植物	単子葉植物		ラン	オオバノトンボソウ				範囲外(大河津分水路下流右岸)	指定植物
40	種子植物	被子植物	単子葉植物		ラン	ヒトツブクロ				大河津分水路下流左岸、範囲外(大河津分水路下流右岸)	県RDB-VU、指定植物

A：「平成6年度信濃川水系(信濃川)植物調査」(平成6年度調査)

B：「平成8年度大河津分水路環境影響調査」(平成4年・5年・8年度調査)

C：「平成11年度河川水辺の国勢調査(植物調査)」(平成11年度調査)

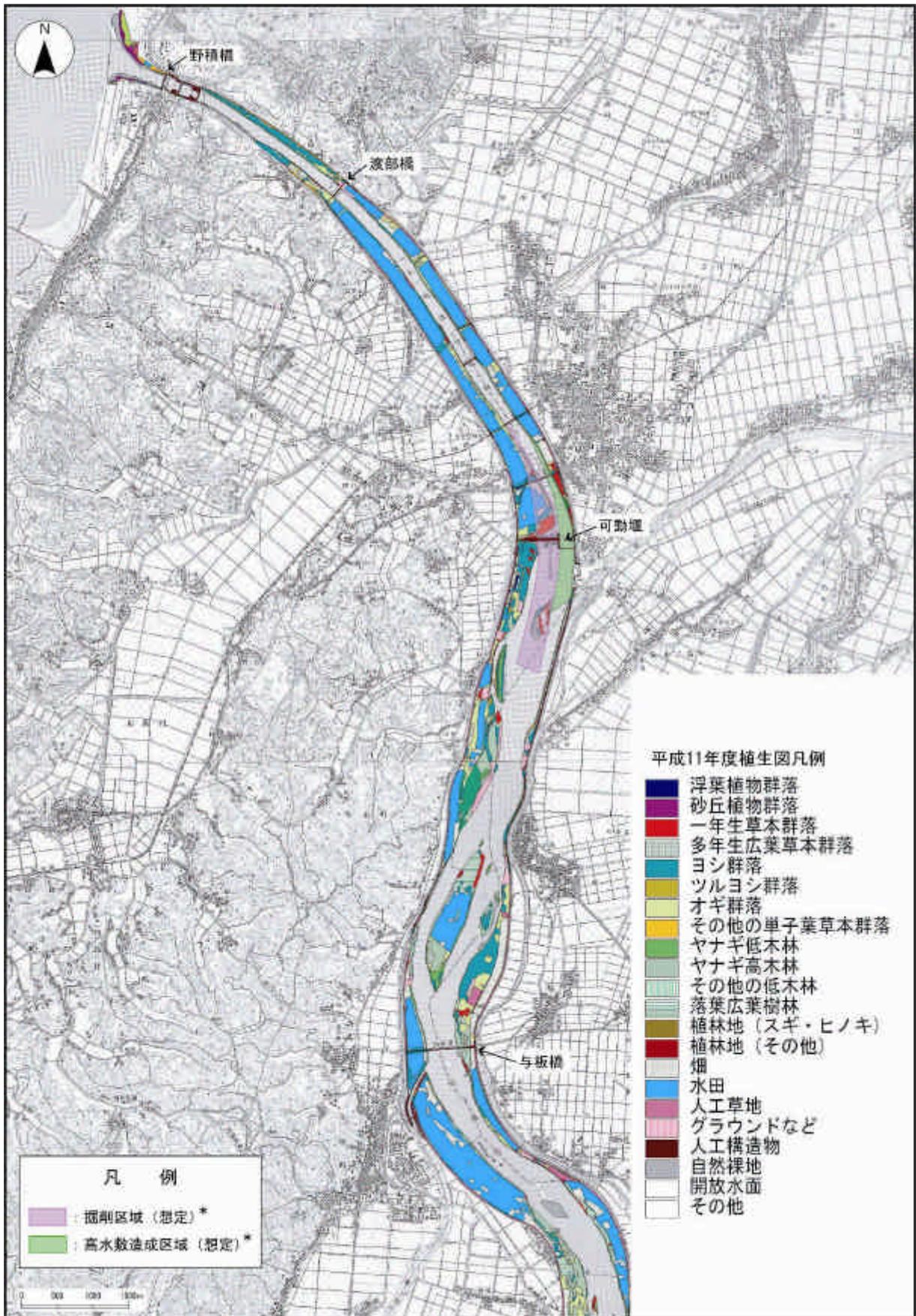
指定植物：佐渡弥彦米山国定公園における指定植物

RDB：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック」(環境庁,2000)における選定種 CR+EN:絶滅危惧 類、CR:絶滅危惧 A類、EN:絶滅危惧 B類、VU:絶滅危惧 類、NT:準絶滅危惧、

DD:情報不足

県RDB：「新潟県レッドデータブック」(新潟県、平成13年)における選定種 EN:絶滅危惧 類、VU:絶滅危惧 類、NT:準絶滅危惧

図 3-23 現存植生図



* 河道及び低水路掘削区域、高水敷造成区域の具体的な形状は現在検討中であり、変更の可能性があります。